

わが家らしい暮らし方

特集
P2-5

「里親」という選択



PICK UP!

P6

10月からは家庭ごみ指定袋でのごみ出しを
家庭ごみ指定袋以外でのごみ出しは
9月30日で終了しました

P31

みなでお祝いしよう！
市制110周年記念式典

アプリで市報あまがさが読めます



やさしい日本語にも対応



それぞれの家族のかたち

どのような思いで里親という家族のかたちを選択し、
どのような日々を過ごしているのか、皆さんに伺いました

Interview 01

養育里親



お姉ちゃんと一緒に♪



古部さん

上手に畳めるようになってきた!



初めて夫に相談した時は、「里親って何?」とびっくりされましたね。話しているうちに大げんかになることも(笑)。でもそれは、里親制度のことをまだよく知らなかったから。インターネットなどで調べていくうちに、夫自身は小さかった頃の「かぎつ子」の寂しさや不安を思い出し、「そんな子どもが一人でも減って幸せになれば」と私の考えに共感してくれるようになりました。また、娘の「兄弟が増えたらうれしい」という気持ちも後押しになりました。

かつての決意が、
家族のもう一つの選択肢に

初めてこの子が来た時は、人見知りこそないものの、あっさりとしていて人に関心がない感じでした。一人で過ごすことに慣れていて、黙々とやりたいことをする様子。人によって攻撃的な一面を見せるなど、行動の原因が分からない時は本人に聞くしかなかったのですが、幼い子どもには言語化が難しく、ぶつかることが多かったのです。根気よく対話を重ねることで変化が表れ、友達を気遣ったり、家族の誕生日にはプレゼントを買ってきてくれたりと、本当に優しくなってくれました。今でも「なにそれ!」ってことはたまにしますが、それこそが「うち」の時間とお話しよう!というときは「お話ししよう!」と「うち」と話して聞いてくれます。

根気よく対話を重ねて
表れた変化

里親制度とは?

社会的養護が必要な子どもを里親の家庭に迎え、温かい愛情と正しい理解をもって育てることにより、子どもの健全な成長を図るものです。「社会的養護」とは保護者から適切な養育を受けられない子どもを社会全体で育てることをいいます。この制度は里親のためのものではなく、あくまでも家庭を必要とする子どもたちのための制度です。



なぜ里親が必要なの?

子どもたちの成長には、特定の大人との間で築かれる「愛着関係」が重要です。24時間生活を共にする里親家庭で子どもの小さな変化に気づき一人ひとりに寄り添って愛情深くサポートすることが、子どもたちの成長につながります。



どれくらい里親がいるの?

社会的養護の下で生活している子どもの人数…204人
(市外を含む)
里親と暮らしている子どもの人数…17人
里親登録の世帯数………56世帯
令和8(2026)年7月31日時点

本市の現状

市外にも里親と暮らす子どもたちがおり、子どもたちの状況に合わせて里親とのマッチングを行うことから、まだまだ多くの市内の里親が必要です。

里親の種類は大きく4種類

1 養育里親

家族と一緒に暮らせない子どもを一定期間養育します。養育の期間は数日から数年とさまざまです

＼養育里親の中には、こんなかたちも!／

週末・季節里親

児童養護施設で暮らす子どもを週末や夏季・冬季のまとまった期間などに預かります

ショートステイ里親

育児疲れや病気、冠婚葬祭などで一時的に養育が困難となった子どもを原則7日以内で預かります

2 養子縁組里親

養子縁組によって子どもの養親となります(戸籍上の親子関係が成立します)

ショートステイ里親として子どもを受け入れることも可能です

3 親族里親

実親の死亡などにより養育できる人がいない場合、祖父母など親族が子どもを養育します

4 専門里親

養育里親が必要な研修を受講し、専門的なケアや特別な支援が必要な子どもを養育します



10月は里親月間です。さまざまな事情により家族と離れて暮らす子どもを、家庭に迎え入れて育てる「里親」。子どもたちのための大切な制度について、一人ひとりができることを考えてみませんか

☎ 1003120 問(子ども企画推進課)
6423・9995 FAX 6409・4354

里親について もっと知りたい



本市では、里親支援センターすてつぷと連携して、子どもと里親が安心して生活できるよう、相談や交流の場づくりなどの支援を行っています
 岡里親支援センターすてつぷ ☎7500-0004 ☎7500-0005

共働きや独身でも なれますか？

可能です。大切なのは子どもを安全に迎え入れられるかどうかです。どのような関わり方ができそうか、一緒に考えます

家の広さや環境に 条件はありますか？

年齢によっては個室の用意をお願いすることがありますが、基本的に条件はありません

いつでも相談できますか？

当センターでは24時間365日、電話での相談を受け付けています。また、里親同士の交流会では、同じ立場だからこそ気軽に相談したり経験を聞いたりできます

よくある 質問

子育て経験が なくてもなれますか？

問題ありません。研修や実習を通して、必要な知識や考え方を学ぶことができます

特別な資格が 必要ですか？

必要ありません。要件はありますが、理解や熱意、子どもに対する愛情があれば誰でもできます

里親制度説明会・相談会

12月15日(火)午前10時～11時
30分、すこやかプラザで。
☎不要。

step5

家庭訪問

関係機関の職員が家庭訪問します。住環境や家族の状況を確認しながら、安心して子どもを迎え入れる準備をします

step4

研修・実習

本市や国が定めた研修を受講します。さらに乳児院や児童養護施設などでの実習を通じて、実際の関わり方や里親の役割、支援体制について学びます

step1

相談

制度のことや不安に感じていることなど、どのような内容でも相談できます

step2

説明会・情報収集

制度の仕組みや里親登録までの流れについて説明を受けます。資料を見ながら「自分にはどのような里親のかたちが合いそうか」を考えます

step3

面談

前向きに検討する際は面談を行います。家族構成や生活スタイル、どの年代の子をどのくらいの期間受け入れられるかなど、現時点での考えを伝えます

step6

審査・登録

研修や家庭訪問の結果を基に、審査が行われます。認定されると里親名簿に登録され、子どもを迎える準備が整います

里親になるためのステップ



尼崎市長
松本 真

これまで車座集会などの場を通じて、里親制度の現状や実情について直接お話を伺う中で、制度を支える皆さまの温かい思いや日々の努力、そして里親制度が果たす重要な役割を深く実感しています。本市では、今年度開設した里親支援センターすてつぷとともに、子育て家庭ショートステイ事業などを引き続き実施し、子どもたちが安心して暮らせる環境づくりを進めています。これからも、里親家庭の暮らしに即したさらなる支援や制度の充実を目指し、子どもたちの権利を守る体制づくりに力を尽くしてまいります。里親制度の推進に向けて、皆さまのご協力を引き続きよろしくお願いいたします。



それぞれの家族のかたち



家族としての始まりは特別だったかもしれないが、周りと同じように子育てについて悩んだり喜んだり。こういう家族のかたちもあるんだって知ってほしいですね。

不妊治療をやめようと思っていた時に特別養子縁組のことを知り、夫と相談して里親に登録しました。登録後は長い間待つという体験も聞いたことがあり、いつマッチングの連絡が来るのか心配でした。里子を迎えるに当たり自分たちが欲しいからといって、子どもを迎え入れるのはエゴなのではという葛藤もありました。しかし研修などを通じて子どものための制度だと認識し、前に進むことができました。子どもが1歳で初めて施設で会った時の不安そうな顔は今でも忘れられません。当時は小さな子どもを育てることに毎日必死。近所の人や知り合いの反応を心配していましたが、意外と自然と受け入れてもらえ逆に驚きました。



今日はパズルに挑戦！

Interview 02

養子縁組 里親



佐々木さん

特別かもしれない家族のスタート
周りと同じ子育ての喜び

Interview 03

養育里親

週末・季節 里親



林さん

施設と足並みをそろえ、
子どもが安心できるよりどころに



次はこのカード！

週末里親の受け入れは、施設へ帰ることが前提。生活ルールなどを合わせるために施設と密にコミュニケーションを取り、子どもが混乱しないよう心掛けています。なるべく同じ子を継続して受け入れ、家でリラックスしてもらうことを最優先にしています。というのも、当初はいろいろな所に連れて行ってあげたところでお出かけを計画していましたが、実は家でゆっくり過ごしたいと思っていたらしくて。本音を言える関係になるまで時間がかかりました。今では笑い話ですが、当時はハツとしましたね。

おじいちゃん・おばあちゃんの家に来た時のように「よく来たね」と迎え入れることで、何かあったときに気にかけてくれる大人がいるという安心感につながれると思います。

Interview 04

養育里親

ショートステイ 里親



中嶋さん

気負い過ぎない育児のために、
支え合いの輪が広がれば

もともと里親制度のことは知っていて、子育てが落ち着いた頃、「一人でも多くの子どもを助けたい」という思いがより強くなったことが、里親になろうと思ったきっかけです。



現在は短期のショートステイを受け入れていますが、親と離れるストレスを少しでも和らげるため、できる限りやりたいことをさせてあげたいと考えています。わが子たちも友達のような感覚で、小さい子だったらお世話をするなど、家族みんなで楽しみに待っています。滞在中、公園からの帰り道で「抱っこ」って言ったのは、短い期間でも心を開いてくれたのかなと実感できてうれしかったです。育児に疲れた時に、ショートステイ制度があることを知っているだけでも心に余裕が生まれると思うんです。気負い過ぎずに、子育てを支え合えれば良いなと思っています。



来てくれた時、これ使ってたね